

(様式第4号)

第6回 武石地域協議会 会議概要

1 審議会名	武石地域協議会
2 日時	平成30年9月19日 午後7時00分から午後8時50分まで
3 会場	武石地域自治センター2階 第1会議室
4 出席者	池内俊郎会長、大草ひろみ副会長、浦部秀幸委員、金井修一委員、金子るり子委員、小池文男委員、小山ひとみ委員、櫻井照子委員、桜井保子委員、鈴木三千夫委員、高橋みち子委員、滝沢美穂委員、馬場美穂子委員、廣田百合子委員、松井智哉委員、宮島友和委員、山岸誠委員、山口英宏委員 【欠席委員2名】
5 市側出席者	石井地域自治センター長、金子地域振興課長、佐藤市民サービス課長、滝沢産業建設課長、宮越教育事務所長、宮下商工観光担当係長 (一財)上田市地域振興事業団 田中事務局長、掛川係長、滝沢雲溪荘支配人 坂部地域政策担当係長、依田地域担当、掛川主査
6 公開・非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
7 傍聴者	1人 記者 0人
8 会議概要作成年月日	平成30年9月26日

協議事項等

1 開会 (大草副会長)

2 あいさつ (池内会長)

3 協議・報告事項

(1) 指定管理施設「雲溪荘」について (協議) (産業建設課説明)

- ・産業建設課から、岳の湯温泉雲溪荘の利用促進のために実施している平成28年度からの取組事項やインターネットにおける雲溪荘の口コミ評価について説明。

【質疑・意見等】

(会長) ただいまの説明や資料に対して、感想やご意見などがあればお願いしたい。

(委員) 平成30年度も半年経過し終了している事業もあるが、各事業への参加者数など取り組みの効果を教えていただきたい。

(事業団) 各事業の人数の詳細はすぐにわからないが、8月末現在で売り上げが対前年比140万円増になっている。

(委員) 定期的に催しをやっているようだが、各事業等の見直しも行っているのか。

(事業団) 利用者の少ない事業は減らし、伸びる事業を残すなどして見直しを行っている。

(委員) 3年間実施して、廃止したプランにはどのようなものがあるか。

(事業団) レディースプランは利用者が少ないため廃止した。小物作りワークショップは、昨年度から始めた事業であり昨年は参加者がいなかったが、今年度も継続した結果、今年は10名ほど参加があった。

(委員) 職員のスキルアップのための外国人旅行者おもてなし研修会などへの参加は、毎年継続的に参加しているのか。

(事業団) 研修については、事業団で計画的に実施している。外国人旅行者おもてなし研修会は、昨年、上田市商工会主催でのインバウンド対策研修会に参加した。今年は現時点で計画がないが、今後あれば参加したい。

(委員) 平成29年度宿泊者数は、対前年比4.5%減少している。原因は大河ドラマ「真田丸」の影響だ

けなのか。

(事業団) 平成 29 年度宿泊者数は対前年比で 4.5%減になっているが、やはり「真田丸」の影響が大きい。雲溪荘のほかに、事業団で管理運営している宿泊温泉施設「鹿月荘」では、平成 29 年度宿泊者数は対前年比で 11.6%減少しており、雲溪荘は努力していると考えている。

(委員) 利用者減に対してさまざまな対策を取られていると思うが、利用者減の原因は何と考えているか。

(事業団) 平成 28 年度、上田市全地域に波及した真田丸効果は非常に大きかったと思う。平成 29 年度は、前年度と比較すると事業団全体でも利用が落ちている。その対策として、各施設に合ったプランをそれぞれ実施しているが、なかなか真田丸効果まで追いつかないのが現状である。

(委員) 朝食バイキングに遅れて行ったところ、料理がすでにほぼなくなっており補充もなかったという話を聞いた。いつでも補充できる状態に改善していただきたい。

(委員) 宿泊人数が少なくても朝食はバイキングなのか。

(事業団) 宿泊人数が 8 名以上の場合はバイキングになり、8 名の場合は 12~13 名分を用意している。足りなくなった場合は、補充できるものを時間的に間に合う範囲で対応している。

(委員) 最近は料理も温かく、従業員の対応も非常によくなったと感じている。従業員全員で雲溪荘の改善点等の検討を行っているのか。

(事業団) 職員のミーティングは随時行っており、現状の施設でいかにお客様に来ていただけるかを検討している。電話対応、接客業務が一番重要と考えて従事している。近年は、予約の際に部屋にトイレがないことを説明すると断られるケースが増えている。施設的にも料金を上げることは難しい。

(委員) 例えば、部屋や廊下に花を 1 輪飾るなどの心遣いはしているか。

(事業団) 農友会からいただいた花を施設内に飾っているが、部屋には飾っていない。生花がある場合は、できるだけ飾っている。

(委員) 飾るのは、季節の野の花でもよい。部屋やトイレに花が 1 輪あるだけで心が和むのではないか。施設の不便さを補うような心遣い、そういったおもてなしの積み重ねも接客には大事なのではないか。

(委員) 今年、雲溪荘で法事をやらせていただいたが、皆喜んで帰っていった。近年は、高速道路も充実して日帰りが多いため、雲溪荘に限らず、どこの宿泊施設も大変なのではないかと思う。

(委員) 平成 29 年度利用者は、27 年度と比較しても減少しているため「真田丸」の影響だけではないだろうと思う。施設としての強みと弱みを見極めることが大事ではないか。

(委員) 前回いただいた雲溪荘の予算書資料では、経営状況などがわからない。事業団では、損益計算書や貸借対照表は作っていないのか。

(事業団) 前回お示しした予算書は、指定管理者として市から求められている資料である。それとは別に、事業団で財務諸表と言われている収支決算書はじめ正味財産計算書、貸借対照表、財産目録等を全施設分まとめて作成している。

(委員) 予算書にある租税公課はどのような内容か。

(事業団) 土地・建物の所有は市であり、事業団は資産を持っていないので固定資産税はない。消費税、法人税、印紙税について算出している。

(委員) 雲溪荘の予算では、施設を営利目的で運営することは不可能な状態で、福祉事業を前提に考える必要がある。それを踏まえた上で今後の対策をどうするか。先ほど紹介していただいた事業で、今年度は売り上げが 140 万円ほど伸びているという話だったが、来年度以降年間での程度の売り上げ増を予想しているか。販売管理費の削減は、どのような施策でどの程度の削減を予定しているか。

(事業団) 2%の売り上げ増を見込んでいる。来年度は消費税が 10%になるため、その分が収入支出共に

増える。販売管理費は対前年比 12 万円減になっており、最低限までしぼっている。あとは事業収入を増やすしかない。先ほどの委員さんがおっしゃるとおり、日帰り者は近隣地域での呼び込みも可能だが、宿泊者はどんどん減少している。宿泊利用者集客のため、今秋から練馬区からの集客をめざしてチラシの配布を予定している。

(委員) 期末在庫はどの程度あるか。また、それは適正と考えているか。

(事業団) 棚卸資産として 70 万円ほど、貯蔵品としてコピー用紙等の消耗品が 6 万円ほど。在庫としては適正と考えている。

(委員) 仕入基準というものはあるのか。

(事業団) 生鮮商品は毎日、市場が休みの日は前日に配達してもらっている。日持ちするものについては、袋単位で購入している。

(委員) 販売品の長期在庫はあるか。

(事業団) 販売品は委託販売のため、雲溪荘としての在庫はない。食品等は、賞味期限間近のものは、業者が回収する。

(委員) 決算書を見ても目に見えて努力していると思うし、広告宣伝にも力を入れており効果も出ている。練馬区保養施設は 10 県 25 施設あり、名立たる温泉地も多い。練馬区全体で練馬区保養施設の利用者数は人口の約 4%程度だが、雲溪荘の利用者数は平均 3%で推移しており、雲溪荘は奮闘していると思う。売り上げ単価も年々わずかながら上がっている。企業努力はしているが、総体の利用者数が少ないため、それを上げていかなければいけない。利用者を見ると、県外者が 7 割、武石地域の利用は年々減少していると思う。公共の宿泊施設は、地域住民の福祉に供する施設のはずだが、実態は他の地方公共団体の住民の福祉に供してしまっている。福祉施設という位置付けでいくのなら、上田市民の利用を増やさなければいけない。他の地方公共団体が利用するための施設の赤字を上田市の税金で補てんするというのはお門違いである。市として、そういったことも捉えなければいけないと思う。

(委員) 料金が安ければよいわけではない。多少料金が高くても、サービス、内容がよければ人は来ると思う。職員が働きがいのある、気持ちよく働ける雰囲気も必要ではないか。

(委員) 経費的なことは別として、客室稼働率を上げるために、現在ある部屋数を減らしてトイレ付の部屋に改修することは可能なのか。

(事業団) 以前もトイレ付に改修しているので、可能だと思う。

(委員) トイレ付の部屋、トイレなしの部屋で料金は異なるのか。

(事業団) 基本的には異なるが、団体の場合、トイレ付、トイレなしの部屋に分かれてしまっても同料金としている。

(委員) 宿泊料金とは別に、飲み物代、土産代等の付随費用で 1 人当たりどの程度使っているか。

(事業団) 調べてみないとわからない。

(委員) 例えば、上田市民の利用促進のために、回収できる範囲の利用補助券を配布することで相対的な利用を増やせないか。そういったことも考えてみてはどうか。

(委員) 日帰り入浴利用者はどのくらいいるのか。

(会長) 平成 29 年度は 5,474 人で、前年より増えている。

(委員) 雲溪荘は、うつくしの湯よりも泉質がよいという方が多いが、うつくしの湯に比べると、土産物がさみしく感じる。日帰り客も買いたくなるようなものなど、土産物を充実させてほしい。

(会長) 地域協議会としても、単に雲溪荘を残してほしいというだけではなく、利用者を増やすために地域としてどのような提案ができるのかを協議していきたい。行政で検討・協議している内容をバックア

ップできるよう、意見をお出しいただきたい。

ここで提案をさせていただきたいが、次回協議会は、雲溪荘の施設と利用促進を兼ねた懇親会を行ったらどうかと思うが、いかがか。

(委員) よいのではないか。

(会長) では、次回協議会は、雲溪荘の視察と懇親会を行うこととする。

(2) その他

(会長) 前回協議会で報告された、上田市スポーツ施設整備計画に対する意見書の回答について、何か意見等があればお願いしたい。

～ 特になし ～

4 次回会議の開催について

日時：10月17日(水)

場所：岳の湯温泉雲溪荘 視察・懇親会

5 閉会(大草副会長)